

複合辞の類義表現「からみれば」と「からすれば」

張 明

[キーワード：①複合辞 ②条件形 ③類義表現 ④「からみれば」 ⑤「からすれば」]

1. はじめに

複合辞の研究は近年盛んになり、動詞テ形の複合辞（「につれて」「にとって」「に対して」など）をはじめ、多くの研究成果が出されてきた。その中で、動詞条件形の複合辞は、「からみれば」「からすると」「にしたら」「からいえば」などのように、種類が豊富で、使用頻度が高いものの、研究として重要視されていない。

そこで、本稿は動詞条件形の複合辞に焦点を当て、その中に、次の(1)(2)のように、類義表現である「からみれば」と「からすれば」を中心に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）より収集した用例を分析し、両者の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする¹⁾。

- (1) 最初はちょっと信じられなかったのですが、私から見れば部下たちはまったくの利己主義者としか思えないのです。 (LBh3_00006 37210)
- (2) 一連の「日本的なもの」は、「産業主義」あるいは「資本主義」という観点からすれば、決して「歪んだ」ものなのではない。 (LBh3_00023 60600)²⁾

2. 先行研究

2.1 高橋（1983）について

高橋（1983）は動詞の条件形から発達した後置詞³⁾について考察したものである。その動詞の条件形から後置詞化したものを大きく「話題をさそいだすもの」と「観点をひきだすもの」の2つに分けている。「からみれば」と「からすれば」は「観点をひきだすもの」として位置づけられ、両者はともに「たちばのえらびだし」（以下、立場）、「側面のぬきだし」（以下、側面）、「比較の規準の設定」（以下、規準）を表すと分析している。本稿と関係する動詞「見る」と「する」の条件形から後置詞化したものを高橋（1983）

の分類に基づいてまとめると、次の表1のようになる。

表1 「見る」と「する」の条件形から後置詞化したものの分類（高橋 1983：313-316 参照）

		をみると をみれば	でみると でみれば でみたら	にしてみると にしてみれば にしてみたら	からみると からみれば からみたら	からすると からすれば	にすると にすれば にしたら
観 点 を ひ き だ す も の	出典のさしだし	△ ⁴⁾	△				
	たちばのえらびだし			○	○	○	○
	側面のぬきだし	○	○		○	○	○
	比較の規準の設定				○	○	
	資格の規準の設定						○

表1から、「からみれば」と「からすれば」はともに「立場」「側面」「規準」に分類されることがわかるが、両者の違いがわからない。両者は本当にこの3つの意味を表しているのか、相違点は何か、実際にコーパスでどのように使われているのか、などの課題が残る。

2.2 劉怡伶 (2020) について

劉 (2020) は視点を表す複合表現「からすると」「からすれば」「からしたら」（「カラスルト」と表記）、「から考えると」「から考えれば」「から考えたら」（「カラカンガエルト」と表記）、「から見ると」「から見れば」「から見たら」（「カラミルト」と表記）を対象に、「日本語話し言葉コーパス (CSJ)」「現日研・職場談話コーパス (CWPC)」「名大会話コーパス (NUCC)」「日本語日常会話コーパスモニター公開版 (CEJC)」及び「現在日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」から収集した用例に基づき、使用状況、意味的特徴及びテキスト機能を考察したものである。

主な結論は以下の4点である。第一に、構成要素の条件形式により文体的な特徴が異なる。「と」を含む形式は話し言葉でも書き言葉でも安定して用いられている。「ば」を含む形式は書き言葉でよく用いられている。「たら」を含む形式は主に改まり度の低い話し言葉で用いられている (p.146)。

第二に、直前の名詞に違いが見られる。「カラスルト」は視点が実体験に置かれる場合に用いられやすい。「カラカンガエルト」は視点が時間軸に置かれる場合に用いられやすい。「カラミルト」は視点が空間概念に置かれる場合に用いられやすい (p.156)。

第三に、後ろの述語について、3つとも基本的に判断を表す表現が来る。また、感情、感覚といった私的領域に属する事態を表す表現が来ることもある。ただし、「カラカンガエルト」は「カラスルト」「カラミルト」と異なり、他者の私的領域に属する事態を

断定的に述べることはできない (p.156)。

第四に、3つとも視点を示すことができるだけでなく、視点の一貫性にも寄与するものである (p.154)。

本稿が劉 (2020) と異なる点は以下の3点である。まず、考察対象である。本稿の考察対象は「からみれば」と「からすれば」の2つのみであるが、劉 (2020) はそれを含む計9形式を考察対象としている。次に、本稿が使用するコーパスは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみであるが、劉 (2020) はそれだけでなく、4つの話し言葉コーパスも使用している。最後に、本稿は「複合辞」という用語を使用するが、劉 (2020) は「複合表現」という用語を使用している。その関係で、「外から見ると美しい街」(劉 2020: 150 の例(15))「上から見ると全然景色が違う」(劉 2020: 150 の例(16))などのように、実質動詞の「見る」として使われる場合は、本稿では考察対象から除外するが、劉 (2020) では考察対象に入っている。

本稿は、まず書き言葉コーパスにおける「からみれば」と「からすれば」を具体的に分析してから、「と」「たら」を含む形式や、話し言葉コーパス、さらに「考える」「言う」などを含む複合辞の詳細を調査する。「ば」「と」「たら」は本当に文体的特徴のみが異なるのか、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスに用いられる用例の間に意味・用法の差はないのか、それらの問題を明らかにした上で、全体像を示したい。

2.3 藤田 (2016) について

藤田 (2016) の研究対象は「からみれば」「からすれば」ではなく、「からして」であるが、「からして」と比較し、「からすれば」について指摘した点がある⁵⁾。

「からして」の意味・用法は大きく2つに分けられている。「判断の根拠 (もしくは観点)」を示す用法 (①用法の「～からして」と、「第一に」「何よりも」といったニュアンスを添えて項目をとり上げる用法 (②用法の「～からして」) の2つである。そのうち、①用法の「～からして」は「～からすれば」「～からすると」とほぼ同義に書き換えが可能であり、類義形式としてひとまとめに扱われることも多い」(p.88) と指摘されている。「～からすれば」「～からすると」は「～からして」と同様に「判断の根拠 (もしくは観点)」を示すが、「～からして」に置き換えられない場合がある。それが「とり上げられる“判断の根拠”が他との対比の中で、一つの可能性としてとり上げられるような場合」(p.94) である。その理由については、「「～からすれば」「～からすると」では、構成要素の意味がある程度生きていること」(p.95) に由来すると指摘している。

さらに、「～からして」も「～からすれば」「～からすると」も、「判断の根拠 (もしくは観点)」を示す用法ではあるが、個別の判断などに拠らない物事の必然といったことが述べられている用例もある (p.95) と指摘している。

藤田 (2016) は「からして」とその類義表現である「からすれば」について興味深い

点を多く指摘しているが、「からみれば」「からすれば」を研究対象としたものではない。「からみれば」「からすれば」の用例を観察して、詳しく検討する必要がある。

2.4 文法書の記述

森田・松木（1989）では、「からみれば」と「からすれば」は同じ項目に立てられ、「ある立場から事物をながめて判断・評価を下すという、話者の視点を表すもので、人物はもちろん、無生物も自由に受けることができる。」（p.6）としており、両者の違いについて触れられていない。友松・宮本・和栗（1996）では、「からみれば」の意味を「～の立場から観察すると」（p.88）としており、「からすれば」の意味を「～の立場から考えると」としている。池松・奥田（1997）では、「からみれば」の意味を「～を見て～と判断する／あることから考えて～だろうと思う」（p.32）としており、「からすれば」の意味を「見たり聞いたりしたしたことから～と予想する」（p.31）としている。いずれもほぼ同じ記述で、違いがはっきりわからない。

一方、グループ・ジャマシイ（1998）では、両者の違いがわかる記述を示している。グループ・ジャシイ（1998：32-33）によると、「からみれば」は「ある立場に立って判断する」という意味を表し、「からすれば」は「判断の手がかり」を表す。しかし、それ以上の記述がないため、「からみれば」と「からすれば」の共通点と相違点を詳しく検討する必要がある。

3. 資料と用例

データの抽出にはBCCWJの検索ツール「中納言」を使用し、2016年1月25日に短単位検索で用例を検索した。検索方法は以下の通りである。

◎「からみれば」

キー：語彙素 が から

後方共起1：キーから1語 語彙素読み が ミル AND 活用形の分類 が
仮定形

後方共起2：キーから2語 語彙素 が ば

◎「からすれば」

キー：語彙素 が から

後方共起1：キーから1語 語彙素読み が スル AND 活用形の分類 が
仮定形

後方共起2：キーから2語 語彙素 が ば

前述したように、(3)と(4)のような実質動詞として使われる用例を除き、「からみれば」を1141例、「からすれば」を968例採集した。

- (3) 地上数百メートル上空から見れば、ハッキリと意味のある絵もあるからである。

(LBg4_00032 14270)

- (4) 心配なら先に動いている方を終了してからすればいい。

(OC02_02079 2850)

4. 共通点について

4.1 意味的共通点

まず、意味から共通点を考える。「からみれば」と「からすれば」の両者とも、高橋(1983)が述べるように、立場、側面、規準を表し、両者が類義関係にあるのは確かなことであろう。

しかし、「立場」「側面」「規準」の定義や分類規準について高橋(1983)では示されていない。高橋(1983)の例文と分類結果を参考に、収集した用例を次のように分類した。まず、立場を表す場合の前接語は「～側」「～サイド」などが典型的で、(5)(6)のような用例がある。パラフレーズするなら「～にとっては」に近い意味を表すと考えられる。

- (5) 盆栽に凝れば、当の本人は面白かるうが、ハタの者から見れば、ひねた珍妙な植木を、パチパチ切りきざんで、何がおもしろいのか、ということになる。

(LBr9_00016 18040)

- (6) しかし、日本側からすれば、一括してオランダ人として取扱って支障はないわけである。

(LB19_00152 4880)

次に、側面を表す場合の前接語は「～こと」「～面」「～点」「～観点／見方／見解」などが典型的で、(7)(8)のような用例がある。パラフレーズするなら、「～を見て判断すれば」に近い意味を表すと考えられる。

- (7) これらの鏡の紋様は、構成する要素からみれば四鳳鏡と共通するが、細部は典型的な紋様の鏡にくらべ似ても似つかない亜種である。(LBo2_00049 8370)

- (8) ボランティア活動は、それが利他的であるという点からすれば、自助ではないし、また自発性を強調する点からすれば公助でもない。(PB43_00591 5450)

最後に、規準を表す場合の前接語は「～全体」「世界」「歴史」などが典型的であるが、どちらかという、後件に特徴がある。(9)(10)のような用例もそうであるが、後件は「ほんのわずか」「極めて少ない」「低い水準」などの文脈がよく現れる。パラフレーズするなら「～と比べれば」に近い意味を表すと考えられる。

- (9) 女性でもプロ野球ファンは年々ふえているものの、全体から見れば少数派である。(OB1X_00192 17260)
- (10) 宇宙の歴史からすれば、私たちはみな小さな存在でしかありません。(PB24_00311 26360)

すべての用例を分類した結果を示すと、表2のようになる。

表2 「からすれば」と「からみれば」の意味による分類

	からみれば	からすれば
立場	661 (57.9%)	296 (30.6%)
側面	343 (30.1%)	616 (63.6%)
規準	137 (12.0%)	56 (5.8%)
合計	1141 (100%)	968 (100%)

4.2 構文的共通点

3分類には、構文的特徴も見出せる。前掲の(1)(5)(7)の「が」、(6)や次の(11)の「しかし」、(9)の「ものの」、次の(12)の「けれども」、(13)の「のに」、(14)の「にもかかわらず」、(15)の「それに対して」からわかるように、「からみれば」も「からすれば」も逆接・対比を表す文脈でよく用いられる。

- (11) 彼のアカデミックな経歴からすれば、いわば頂点に登り詰めたといつてよい。
しかし、それから二十八年に退官するまでの十二年間、フッサールは数編の論文を除けば著作を一冊も公刊していない。(LBk1_00036 450)
- (12) いまの若い人々からすれば、それは歴史ですけれども、私たちの世代にとっては現実でした。(PB23_00642 28090)
- (13) DNAの体積は全体からみればわずかなものにちがいないのに、なぜ私はセルロースではなくDNAが降っていると言ったのだろうか？(LBh4_00033 1490)
- (14) 後者は、純粹に外見的観点からすれば、前者と同じく接近可能であり、利用可能であるにもかかわらず、無視されるのである。(PB21_00146 9420)
- (15) 純粹の懺悔は、たんに煮えたぎっている心身のエネルギーの噴出現象であり懺悔者の側から見れば、エネルギーの解放、放出、排出行為である。それに対して芸術家の告白は、いつも、そして確実に、自己の正当化になりがちである。(PB19_00470 30480)

「からみれば」に関しては、全 1141 例中、550 例が逆接・対比を表す文脈で用いられており、48.2%を占めている。「からすれば」に関しては、全 968 例中、483 例が逆接・対比を表す文脈⁶⁾で用いられており、49.9%を占めている。いずれも用例の約半数となり、逆接・対比を表す文脈でよく用いられると言える。

逆接・対比を表す文脈のうち、次の(16)(17)のような用例が最も典型的である。

- (16) 日本人の君から見ればイギリスもアメリカも同じような西洋文化圏の国に思えるかもしれないが、僕らから見れば、あの頃のイギリスとアメリカはまったく文化の違う国だった。(LBn2_00008 22510)
- (17) 妻の側からすれば、事業がうまくいかず、あるいは失敗して借金だけが残った夫は、生活費も入れられない甲斐性のない男としか映らないでしょう。一方、夫にしてみれば頑張っているんだから、なんとか辛抱して耐えてくれと言いたいでしょう。(PB43_00012 26850)

田中(2010:164)によると、一般にレバ条件文には、「対比的な言い方をはじめ、フォーマルな表現がみられる」という特徴がある。例えば、次の(18)のような例がある。

- (18) 海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍。大君の辺にこそ死なぬ願みはせじ。
(田中 2010 : 166)

「海へ行けば亡骸があり、山へ行けば亡骸がある」という両面の対等な対比を表す。……(中略)このようなレバには「～かと思えば、一方では～」という含意が濃厚である。(田中 2010 : 177)と指摘されている。「からみれば」と「からすれば」もレバ条件節であるため、逆接・対比を表す文脈でよく用いられることはこのレバのこの特徴に由来するためと言えるだろう。

5. 相違点

4.では、「からみれば」と「からすれば」の共通点を意味と構文という2つの側面から見た。相違点については、共起する前接名詞を中心に考察する。

5.1 前接名詞の分類

本稿では、「からみれば」と「からすれば」の前接名詞を具体的に確認してから、『分類語彙表 増補改訂版』(大日本図書, 2004、以下『分類語彙表』)の分類を参考にし、以下の「主体」「時間」「方向・空間」「数・量」「活動・行為」「抽象」「精神」「その他」という8分類を行った。

「主体」は『分類語彙表』の「1.2 人間活動の主体」に相当し、主に「人」「組織」「国」などを表す語である。例えば、「私」「国民」「共産党」「企業」「～側」などが挙げられる。「時間」は「1.1 抽象的關係」の中項目の「1.16 時間」に相当し、「昨年」「今」「あの頃」などが挙げられる。「方向・空間」は「1.1 抽象的關係」の中項目の「1.17 空間」に相当し、「はた」「周囲」「向こう」などが挙げられる。「数・量」は「1.1 抽象的關係」の中項目の「1.19 量」と「1.3 人間活動精神および行為」の中項目の「1.37 経済」に相当し、「大きさ」「メンバー数」「シェア」などが挙げられる。「活動・行為」は「1.3 人間活動精神および行為」の中項目の「1.31 言語」「1.32 芸術」「1.33 生活」「1.34 行動」「1.35 交わり」「1.36 待遇」「1.38 事業」に相当し、「議論」「教育」「浪費」「神話」などが挙げられる。「抽象」は「1.1 抽象的關係」の「1.10 事柄」「1.11 類」「1.12 存在」「1.13 様相」「1.14 力」「1.15 作用」「1.18 形」に相当し、また形式名詞や指示詞もここに含む。例えば、「こと」「それ」「面」「前提」「体系」「規準」などが挙げられる。「精神」は「1.3 人間活動の精神および行為」の中項目の「1.30 心」に相当し、「観点」「見解」「原則」「感情」などが挙げられる。「その他」は「1.4 生産物および用具」「1.5 自然物および自然現象」に相当し、「目」「商品」「仏像」「猫」などが挙げられる。

以上の分類方法で分類した結果は次の表3の通りである。

表3 前接名詞の分類と語数

	「からみれば」		「からずれば」	
	粗頻度	比率	粗頻度	比率
主体	535	46.9%	284	29.2%
時間	56	4.9%	15	1.6%
方向・空間	61	5.4%	3	0.3%
数・量	72	6.3%	39	4.0%
活動・行為	27	2.4%	39	4.0%
精神	112	9.8%	275	28.4%
抽象	209	18.3%	299	31.0%
その他	69	6.1%	14	1.5%
合計	1141	100%	968	100%

5.2 前接名詞の詳細

本節では、「からみれば」と「からずれば」は具体的にどのような前接名詞と共起し、その頻度がどれくらいかを詳細に確認し、前節の表3も参考にして、両者の相違点を明らかにしたい。

その前に、「からみれば」の総出現数は1141、「からすれば」の総出現数は968で、大きな差ではないが、前接名詞は粗頻度ではなく、以下の(19)で示す計算式で計算した調整頻度で比べる。

- (19) 「からみれば」の調整頻度 = 粗頻度 ÷ 1141 × 1000
「からすれば」の調整頻度 = 粗頻度 ÷ 968 × 1000

まず、「からみれば」としか共起しないもの（粗頻度1のものを省略）を示すと表4、両方につく前接名詞で「からみれば」と共起する調整頻度が多いものを示すと、次の表5のようになる。

表4 「からみれば」としか共起しないもの（粗頻度1のものを省略）⁷⁾

「からみれば」前接名詞 の調整頻度	語例
12.27	はた
10.52	私たち
9.64	僕
7.01	周り
6.13	傍
5.26	後
4.38	端、一面
3.51	国、女、中国、周囲
2.63	傍目、君、欧米人、上、世代、世間、他、他者、外国、外国人、現代、現代人、意識
1.75	アメリカ、そこ、その他、パターン、メーカー、ユダヤ人、大局、反対、吉宗、経営者、労働者、逆、農業、女性、僕ら、神、時点、世間一般、体系、外部、位置、研究者、一方、以上、宇宙

表5 両方につく前接名詞で「からみれば」と共起する調整頻度が多いもの

「からみれば」前接名詞 の調整頻度	「からすれば」前接名詞 の調整頻度	語例
42.07	4.13	目
35.93	3.10	全体
26.29	18.60	私
25.42	14.46	人
24.54	5.17	面

17.53	1.03	他人
14.02	13.43	視点
9.64	1.03	今
9.64	2.07	彼
7.89	2.07	側面、今日、世界
7.01	2.07	ほう、角度、歴史
7.01	1.03	日本人
6.13	1.03	第三者
6.13	3.10	人たち、人間、眼
5.26	4.13	水準
4.38	3.10	日本
3.51	1.03	彼ら、大人、専門家、生活、大人
2.63	2.07	サイド、会社、流れ、内容、庶民、子ども
2.63	1.03	向こう
1.75	1.03	こちら、ユーザー、大きさ、個人、先生

次に、「からすれば」としか共起しないもの（粗頻度1のものを省略）を示すと表6、両方につく前接名詞で「からすれば」と共起する調整頻度が多いものを示すと、次の表7のようになる。

表6 「からすれば」としか共起しないもの（粗頻度1のものを省略）

「からすれば」前接名詞の調整頻度	語例
17.56	感覚
16.53	意味
11.36	見方
8.26	考え
6.20	標準
5.17	観念、趣旨
4.13	見解、経歴、事実、価値観
3.10	イメージ、男、認識、実情、文脈、議論、原理、者、掟、行動
2.07	おまえ、レベル、本来、成り行き、持論、当時、定義、読者、発想、共産党、好み、名前、実力、収入、文面、相場、信念、性格、言葉、役割、原則、値段、構成、哲学

表7 両方につく前接語で「からすれば」と共起する調整頻度が多いもの

「からすれば」前接名詞 の調整頻度	「からみれば」前接名詞 の調整頻度	語例
75.41	28.05	立場
68.18	63.98	側
51.65	35.93	観点
45.45	11.39	こと
20.66	16.65	点
13.43	1.75	見地
13.43	2.63	考え方
9.30	1.75	常識
9.30	5.26	状況
7.23	0.88	基準
7.23	1.75	経験
7.23	2.63	方
6.20	1.75	それ、目的、関係
6.20	2.63	国民
6.20	3.51	ところ
5.17	1.75	論理、我々、現状
5.17	2.63	親
4.13	0.88	相手
4.13	1.75	理念、数
3.10	0.88	法則、年齢、時代
3.10	1.75	規模
2.07	0.88	こっち、構造、規定、体制

5.3 相違点に関する考察

表3～表7を見ると、「からみれば」と「からすれば」の前接名詞について以下の3点の相違点が指摘できる。

- (I) 「からみれば」は「主体」を表す語と最も共起しやすい。それに対して、「からすれば」は「からみれば」と比べて、「精神」「抽象」を表す語と共起しやすい。
- (II) 「からみれば」は「からすれば」と比べて、「方向・空間」を表す語と共起しやすい。特に「ハタ」「傍」「周り」などの表現と共起しやすい。

(Ⅲ) 「からみれば」は「目」「眼」と共起しやすい。

(Ⅰ)については、表3からわかるように、「からみれば」の前接名詞は「主体」を表す語が約47%を占め、「からすれば」の約29%と差が見られる。また、表4と表5から、「からみれば」としか共起しないものと「からみれば」と共起する調整頻度が多いものの中に、太字で示した「主体」を表す前接名詞が多いことがわかる。それに対して、表3からわかるように、「からすれば」の前接名詞が「精神」と「抽象」を表す語が合わせて約60%を占め、「からみれば」の約28%と2倍以上の差が見られる。また、表6と表7から、「からすれば」としか共起しないものと「からすれば」と共起する調整頻度が多いものの中に、網かけで示した「精神」と「抽象」を表す前接名詞が大多数を占めることがわかる。

また、劉(2020)では「カラスルト」の直前の名詞に「感覚」「経験」が上位にランクインしていることから、実体験に視点が置かれる場合、「カラスルト」が用いやすい(p.149)と指摘されている。表6と表7で確認すると、「からすれば」としか共起しないものの中に、「感覚」が入っており、「からすれば」と共起する調整頻度が多いものの中に、「経験」が入っている。劉(2020)に支持する結果が得られた。

(Ⅱ)については、表3からわかるように、「からみれば」の前接名詞のうち「方向・空間」を表す語が約5.35%を占め、高い比率ではないものの、「からすれば」の0.31%と差があると認められる。特に、「からみれば」が前掲の(5)や次の(20)(21)のように、「傍・周り・よそ」などの表現と結合する例が42あり、それらの表現と共起しやすいのに対し、「からすれば」と共起する例は見られない⁸⁾。

- (20) 初期の頃はセクソロジー関連の引用が続き、傍目から見ればお世辞にも好ましい読者とは言えなかったであろう。(LBk0_00004 47770)
- (21) 周りから見れば、都合のいい関係に見えるけど、彼にとっては真面目な恋愛みたいです。(OC09_12597 1330)

(Ⅲ)については、「からみれば」は(22)(23)のように、「目」「眼」と共起する例が55あるのに対し、「からすれば」は7例のみであり、「からみれば」は「目」「眼」と共起しやすいと言える。

- (22) 青年期の栗橋浩美は、滋子の目から見れば、単なる自尊心肥大症の負け犬でしかない。(OB6X_00026 67260)
- (23) 「精神分析学者の眼から見れば、あらゆることが悪く見えるものだ」とわたしは教訓めかして答えた。(LBs9_00074 6540)

- (24) もっとも小宮豊隆の漱石への訴えには同性愛的感情も含まれていたから、そうした弟子の「回からすれば漱石は父であるとともに師であり、そして友達であり恋人にさえ近い存在だったことになる。(PB32_00081 26410)

最後に、なぜ上記3点の相違点が見られたか、それについて考察する。これは「からみれば」の「見る」の「視覚によって人やものの存在を認識する」⁹⁾という実質の意味が残るということに大に関係があると考えられる。「人」が「見る」ため、「主体」を表す語と共起しやすいと解釈できる。また、「～という方向」から「見る」ため、「方向・空間」を表す語と共起しやすいと言える。「目」で「見る」ため、「目」「眼」と共起しやすいのも当然なことだと考えられる。

5.4 意味による分類と前接語による分類の関係

4.では、「からみれば」と「からすれば」を意味によって、「立場」「側面」「規準」と3分類し、その結果、表2からわかるように、「からみれば」は「立場」を表す用例が最も多いのに対し、「からすれば」は「側面」を表す用例が最も多いことがわかった。

5.では、「からみれば」と「からすれば」の前接語を「主体」「時間」「方向・空間」「数・量」「活動・行為」「抽象」「精神」「その他」と8分類し、その結果、表3からわかるように、「からみれば」は「主体」を表す語と最も共起しやすいのに対し、「からすれば」は「からみれば」と比べて、「精神」「抽象」を表す語と共起しやすいことがわかった。「立場」と「主体」、「側面」と「精神」「抽象」のように、意味による分類と前接語による分類の間にある程度の相関関係が見られる。

意味による分類と前接語による分類の関係を示すと、「からみれば」については表8、「からすれば」については表9のようになる。

表8 「からみれば」の意味による分類と前接語による分類の関係

	立場	側面	規準	合計
主体	523	0	12	535
時間	1	3	52	56
方向・空間	46	11	4	61
数・量	2	27	43	72
活動・行為	4	15	8	27
抽象	15	182	12	209
精神	6	105	1	112
その他	64	0	5	69
合計	661	343	137	1141

表9 「からすれば」の意味による分類と前接語による分類の関係

	立場	側面	規準	合計
主体	274	6	3	283
時間	0	3	12	15
方向・空間	2	1	0	3
数・量	0	17	22	39
活動・行為	0	37	2	39
抽象	11	277	12	300
精神	0	272	3	275
その他	9	3	2	14
合計	296	616	56	968

表8と表9からわかるように、「立場」を表す「からみれば」「からすれば」の前接語は「主体」を表すものが圧倒的に多い。「側面」を表す「からみれば」「からすれば」の前接語は「抽象」「精神」を表すものが圧倒的に多い。「からみれば」「からすれば」と共起する前接語から、「立場」か「側面」か、ある程度予測することができる。

一方、「規準」を表す「からみれば」「からすれば」については、前接語が「時間」「数量」を表すものが比較的多いが、前接語からではなく、後件の文脈から「規準」を表すかどうかということ判断する。例えば、(25)(26)の前接語はともに「会社」であるが、(25)の後件は「まだまだ小さい」という比較の文脈であるため、(25)の「からすれば」は「規準」を表す。それに対し、(26)の後件は比較の文脈ではないため、「規準」ではなく、「立場」を表す。

(25) しかし、世界的な規模の外資系製薬会社からすれば、日本の製薬業界はまだまだ小さい。
(PM43_00024 1720)

(26) コンピュータを導入したのは昭和五十六年で、この規模の会社からすれば決して早い方ではないが、その後のアプリケーションの急速な拡張は注目に値する。
(PB33_00071 6800)

6. おわりに

本稿は動詞条件形による複合辞に焦点を当て、類義表現である「からみれば」と「からすれば」を取り上げ、両者の共通点と相違点についてコーパスから収集した用例に基づいて考察した。まず、共通点について考えた。「からみれば」と「からすれば」の両者とも立場、側面、規準を表すという意味的共通点が見られる。また、「からみれば」

も「からすれば」も逆接・対比を表す文脈でよく用いられるという構文的共通点も見られる。次に、前接名詞を中心に、3点の相違点を指摘した。第一に、「からみれば」は「主体」を表す語と最も共起しやすい。それに対して、「からすれば」は「からみれば」と比べて、「精神」「抽象」を表す語と共起しやすい。第二に、「からみれば」は「からすれば」と比べて、「方向・空間」を表す語と共起しやすい。特に「ハタ」「傍」「周り」などの表現と共起しやすい。第三に、「からみれば」は「目」「眼」と共起しやすい。

本稿は書き言葉コーパスの用例に基づいた分析であるが、今後の課題として、話し言葉コーパスにおける「からみれば」と「からすれば」が書き言葉のデータと同様の特徴が見られるかについて考察したい。また、同義とされる「からみると」「からみたら」「からすると」「からしたら」は「からみれば」「からすれば」と同様の特徴が見られるかということも今後の課題である。さらに、「からいえば」「にすれば」「にしてみれば」などのように、まだ考察が進んでいない動詞条件形の複合辞の分析も進めたい。

注

- 1) 「からみれば」は「からみれば」と「からみれば」の2つの表記があるが、便宜上、本文では、「からみれば」で統一し表記する。ただし、例文では、原文を忠実に反映するため、2つの表記を使い分けている。
- 2) 出典はBCCWJのサンプルIDと開始位置である。下線等は筆者によるものである。ただし、先行研究の引用は先行研究のままである。また、例文における漢数字や算用数字、アルファベット表記はすべて原文のままである。
- 3) 「後置詞」と「複合辞」の関係については、松木(2006)を参照されたい。後置詞は文中での出現位置という語順に基づく名称で、「複合辞」は要素の複合という形態による名称であり(p.24)、「後置詞と呼ばれる表現群の領域と助詞的に機能する複合辞の領域とが実際には重なる場合が多い」(p.15)。本稿は、なじみのある「複合辞」という名称を採用するが、先行研究を紹介するとき、「後置詞」を使用する場合もある。
- 4) 「出典のさしだし」には「をみると」と「でみると」のみ入れてあり、「をみれば」「でみれば」「でみたら」は入れられていないため、「△」で表す。
- 5) 「からみれば」についての指摘はない。
- 6) 逆接・対比を表す文脈がどこまで「からみれば」「からすれば」と関わるか、判断しにくい場合がある。同じ文の中はもちろん、前後一文の冒頭に、逆接・対比を表す表現があるかどうかも判断の目安にした。前後一文の冒頭に逆接・対比を表す表現があればカウントする。前後一文を超えた範囲で逆接・対比を表す表現が来てもカウントしない。
- 7) 前接名詞はBCCWJから採取したそのままの形ではなく、一定の処理を行った後で

分析した。例えば、比較しやすいように、「いま」「今」を「今」に、「きみ」「君」を「君」に表記の統一という処理である。また、「生産側」も「教える側」も「完全子会社の側」も「側」に統一した処理もある。

- 8) 劉 (2020) でも空間概念を表す名詞は「カラミルト」と共起しやすいと似た指摘をされているが、劉 (2020) では「外から見ると美しい街」(劉 2020: 150 の例 (15)) 「上から見ると全然景色が違う」(劉 2020: 150 の例 (16)) などのように、実質動詞の「見る」として使われる場合も考察対象にされている。本稿ではそれらを考察対象とせず、「傍・周り・よそ」などの表現に注目して分析を行う。
- 9) 国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』(<https://verbhandbook.ninjal.ac.jp>) の「みる」という項目によるものである。

参考文献

- 池松孝子・奥田順子 (1997) 『「あいうえお」でひく日本語の重要表現文型』 専門教育出版
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
- 高橋太郎 (1983) 「動詞の条件形の後置詞化」(渡辺実・編) 『副用語の研究』 pp.293-316. 明治書院
- 田中寛 (2010) 『複合辞からみた日本語文法の研究』 ひつじ書房
- 藤田保幸 (2016) 「複合辞「～からして」について」『龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報』 25. pp.87-102. 龍谷大学グローバル教育推進センター
- 松木正恵 (2006) 「複合辞研究史Ⅳ 「後置詞」というとらえ方」『学術研究 (国語・国文学編)』 54. pp.15-26. 早稲田大学教育学部
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (1996) 『どんな時どう使う 日本語表現文型 500』 アルク
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型』 アルク
- 劉怡伶 (2020) 「視点を表す複合表現—「カラスルト」「カラカンガエルト」「カラミルト」を中心に—」『日本語文法』 20-2. pp.141-157. 日本語文法学会
(ちょう・めい 2018 年度博士後期課程修了)